

平成20年11月17日

南京展示会と江蘇省の業界近況について

有力な地方展示会の一つである南京展示会が今年も開催され参観する機会を得たので報告する。また、江蘇省の業界近況についてまとめてみたので併せて報告する。

展覧会名：第26回中国江蘇国際自転車、電動車及び部品交易会
会期：2008年10月25日(土)～27日(月)
場所：江蘇省南京市 南京国際展覧中心
主催：江蘇省自行車協会、江蘇省自行車有限公司
中国自行車協会助力車專業委員会、江蘇省交通安全協会
会場面積：4.5万平方メートル（前年比25%減）
出展企業数：約300社（前年比25%減）
参観者数：4.5万人（前年比10%減）（事務局発表数値）

<展示会概況>

江蘇省自行車有限公司、江蘇省自行車協会、中国自行車協会助力車專業委員会、江蘇省交通安全協会の主催により10月24日から3日間、第26回中国江蘇国際自転車、電動車及び部品交易会が南京国際展覧中心にて開催された。



開会式

出展企業は地元江蘇省の電動車メーカーを中心に約300社が出展した。今年は電動車市場の減速の影響からか出展企業数、会場面積ともに前年比25%減と規模が縮小され、参観者数も前年比10%減となった。展示は電動車及びバッテリー、タイヤなどの関連部品、さらに「助力車」(中国版原動機付自転車とも言えるもので48ccガソリンエンジン仕様、小売価格は日本円で48,000円程度)や電動三輪車も展示され自転車は例年通り無錫川村が展示するのみであった。

電動車は、最近大量生産によって価格が低下したリチウムイオン電池の採用により幅が狭く、軽量化された軽便型が主流になりつつある(江蘇省自行車協会発表によると、リチウムイオン

電池は現在主流の鉛電池に比べ小型、軽量であり、今年はそれを採用した電動車が全体の30%以上を占めるまでになった。



江蘇省のメーカーが展示した軽便型電動車



電動三輪車が充実しつつある。



唯一の自転車展示メーカー、無錫川村

また、国内の電動車保有台数の急速な増加に伴い(一説によると既に1億台以上とも言われている)、ブレーキ、タイヤ、バッテリーなどのアフターマーケット市場が拡大しつつある。今回、専用商品を開発し、発表している出展企業が増えていた。電動車は自転車に比べ重量があり、高速で走行するので、特にブレーキは消耗が早く、純正品納入数量の約25%に当たる数量が補修用として出ているという。また、速度とは関係ないがバッテリーも1~2年に一度の交換が必要のため、純正数量の約50%が交換用として需要があるということである。



広州のメーカーが展示した助力車

協会の発表によると各電動車メーカーの2008年上半期の傾向は、国家標準に適合したモデルの製造に重点を置き、それは60%に達したとしているが、この展示会でも標準適合型が主流となっていた。また、電動三輪車が商品として充実してきている。品質だけでなく用途も人の移動から貨物の運搬にまで拡大し、この展示会では電動三輪車専用フロアが設定されるまでになっており、今後生産が増加しそうな商品である。

江蘇省の業界は現在、電動二輪車市場の減速感が強まる中、電動三輪車やアフターマーケット用部品の生産に新たな活路を見出そうとしていることが参観により窺えた。

次回は2009年10月23日から25日まで開催されることが既に決定している。

尚、1995年9月に設立された江蘇省自転車協会は、設立14年目の今年8月に省内の電動車生産の発展を受け「江蘇省自転車電動車協会」へ改名した。

＜江蘇省の業界近況＞

江蘇省に限った話ではないが、今年上半期は自転車、電動車メーカー問わず、原材料及び輸送コストの増加、さらに労働契約法改正に伴う社会保険負担などの賃金コストの上昇により、メーカーの経営は圧迫されている。人民元の上昇、増値税還付率の低下も小規模の自転車、電動車及び部品輸出メーカーの経営を非常に苦しめている模様である。

ただし、原材料価格のなかで石油に関係するものは別として、鋼材についてはオリンピックの前と後では大きく状況が異なっている。オリンピック前までは鋼材のコストが大幅に上昇したことが自転車製造業にとっては負担となっていたが、逆にオリンピック後は(石油関係は別として)、鉄でオリンピック前に比べ 30～50%、アルミで 20～30%値下がりしたことで、8 月以前に仕入れた鋼材の在庫を保有する部品メーカーにとっては完成車メーカーや日本の顧客からの値下げ圧力に再び苦慮している状況にある。

江蘇省自転車協会発表による省内の今年 1－6 月期の自転車の生産台数は、前年同期比 17.05%減の 299.85 万台である。最大手の捷安特(中国)はじめ主要 7 社全てが前年に比べ減少している(表 1 参照)。

電動車については省内に国内最大の北京新日電動車製造や捷安特、南京大陸鴿高科技、江蘇雅迪科技、常州洪都などの大手電動車メーカーがあり、それらの生産台数は中国全体の約60%を占めるほどで、なかには新日、捷安特、洪都のように年産 100 万台突破を目標に掲げているところもある。

今年 1－6 月期の電動車メーカー別生産実績を表 2 として掲載した。

表 1: 2008年1－6月期 江蘇省主要自転車メーカー別生産台数

(単位:台)

社名	生産台数			
	6月	2008年 1－6月(A)	2007年 1－6月(B)	A/B (%)
捷安特(中国)有限公司	202,400	1,297,000	1,368,200	-5.2
永祺(常州)車業有限公司	94,500	724,400	834,100	-13.15
昆山好孩子百瑞健康用品有限公司	59,400	262,700	459,100	-42.78
耀馬車業(中国)有限公司	38,300	270,500	405,600	-33.31
常州普利司通自転車有限公司	43,200	317,400	334,600	-5.14
昆山鳳凰車業有限公司	14,100	101,300	179,900	-43.69
無錫川村自転車有限公司	2,100	25,200	33,400	-24.55
合計	45,400	2,998,500	3,614,900	-17.05

出所:江蘇省自転車協会発行「電動二輪車」2008年7月号

表2: 2008年1-6月期 中国電動車メーカー別生産台数 (1万台以上と日系を抽出)

(単位:台)

★は江蘇省のメーカー	社名	生産台数			
		6月	2008年 1-6月(A)	2007年 1-6月(B)	A/B (%)
★	南京大陸鵠高科技有限公司	22,094	87,834	72,476	21.19
	上海臥龍電動車業有限公司	18,943	102,391	82,297	24.42
	天津邦德電動車有限公司	16,829	139,020	119,740	16.10
	山東英克莱集团有限公司	59,851	279,829	261,522	7.00
	中路股份有限公司	12,770	72,261	77,970	-7.32
	深圳中華自行車(集团)股份有限公司	11,000	84,000	88,000	-4.55
	浙江千釐工貿有限公司	25,470	154,447	174,912	-11.70
★	捷安特電動車(昆山)有限公司	22,761	134,185	120,403	11.45
★	北京新日電動車製造有限公司	68,712	378,419	372,195	1.67
	淄博安琪爾電動車廠有限公司	15,830	63,290	55,833	13.36
★	蘇州市吴中区和平実業有限公司	13,892	79,056	107,271	-26.30
★	常州青島電動車製造有限公司	12,000	67,800	95,817	-29.24
	天津新宝車業有限公司	14,195	67,855	39,962	69.80
	濰坊比德文電動車製造有限公司	58,350	264,020	200,500	31.68
	青島澳柯瑪集团	82,300	355,300	280,820	26.52
★	江蘇雅迪科技發展有限公司	63,000	314,700	290,000	8.52
	河南森地助力車有限公司	20,936	131,022	142,516	-8.07
★	常州洪都電動車有限公司	22,020	126,725	112,000	13.15
★	常州盛揚電動自行車有限公司	15,160	96,454	89,130	8.22
	上海迪鼠電動車科技有限公司	12,572	72,224	75,154	-3.90
	浙江力霸皇工貿集团有限公司	13,256	71,451	53,860	32.66
	招興市宏亜機電有限公司	15,830	63,290	55,833	13.36
★	常州奧斯電動車有限公司	12,358	62,946	50,588	24.43
	寧波市哈里斯頓機電有限公司	10,010	55,898	78,202	-28.52
★	無錫川村自行車有限公司	6,904	30,335	15,944	90.26
★	常州普利司通自行車有限公司	2,374	11,797	16,805	-29.80
	その他	118,277	743,784	1,010,234	—
	合計	767,694	4,110,333	4,139,984	-0.72

出所: 江蘇省自行車協会発行「電動二輪車」2008年7月号を基に作成



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。